

生活安全②

危険な場所を理解し、児童が安全に生活するための意識を高める学習事例

小学校 第3学年（総合的な学習の時間）

単元（題材）について

1 題材名 地域安全マップを作ろう

2 安全教育上の目標

I-4 地域や社会生活での安全

地域・社会で起こる犯罪や危険について理解し、安全に行動できるようにする。

内容 一人で行ってはいけない場所を確認すること。（I-5-①）

人通りの少ない道や街路灯の少ない場所など「入りやすく、見えにくい」場所を確認すること。（I-5-②）

「子供110番の家」の場所を確認すること。（I-5-④）

3 教材化の視点

大きな通りは、人通りも多く道路も整備され、安全性が高いと言えるが、裏道は人通りが少なく、道幅が細く、見通しが悪く暗いところもある。

本単元では、児童が安心して生活できるようにするために、児童に「危険な場所」について理解させるとともに、安全は自分たちでつくっていくものであるという意識をもたせ、主体的に社会の一員として生活する力を身に付けさせる。

指導計画（26時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1～12	<ul style="list-style-type: none"> ○危険な場所とは、どのような場所なのかを考える。 ○調査に行く場所を決める。 ○1回目のフィールドワークを行い、危険な場所を調べる。 ○調査の結果から地域安全マップを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎デジタル教材を活用し、映像で危険な場所を確認する。 ◎事前準備として、どのような場所が危険か予想させる。
13～20 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○「安全な場所」と「危険な場所」の違いを考え、危険な場所の原因をまとめる。 ○自分たちで決めた方法で、「安全な街づくり」の活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎危険な場所の原因を取り除くためにできることを考えさせる。 ◎全員が自分の考えをもち、発信できるようにする。
21～26	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの活動を誰に伝えたいか決める。 ○いつ、どのような方法で広められるか考え、発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎誰に知らせると地域の安全につながるか、考えさせる。

指導の工夫

マンダラチャートやKJ法などの思考ツールを用いる。

指導事例（第13時／26時間）

1 ねらい

「危険」な場所が「安全」な場所になるようにするには、どうすればよいか考え、話し合うことができるようにする。

2 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価
導入	○本時のめあてと学習方法を確認する。	◎前時に決めた「ここが危険の原因だ」というポイントを確認し、安全な場所にしたいという意識を高めさせる。
	どうしたら「危険」な場所が「安全」な場所になるか考えよう	
展開	○マンダラチャートに、対策を記入する。 (例) ・公園の清掃をする。 ・「子供110番の家」を増やす。 ・放置自転車をどかす。	◎危険なポイントに応じて対策を記入できるように声を掛ける。 ・街灯をつける。 ・落書きを消す。 ・草を刈る。
	○4～5名のグループで、より良い方法を話し合う。 ○グループで話したことを整理し、クラスで共有する。	◎グループで話し合ったことを短冊に記入させ、ホワイトボード上で整理する。 ■自分の考えをもち、友達に伝えようとしている。
まとめ	○本時の学習の振り返りをワークシートに書く。 ○次時の見通しをもつ。	■対策をしっかり考え、次の課題を見付けている。

児童の学習状況

○安全な場所にする方法について、「『子供110番の家』になってもらう店を頼みに行きたくなった。」「選んだ対策が、実際に活動できるか、校長先生に相談に行きたいと思った。」など考えており、自分たちの地域を安全な場所にしようとする意識が見られた。

児童の変容

- 「子供110番の家」を見付け、何かあった時にどこに駆け込めばいいのか考えようとする意識をもつようになった。
- 危険な場所から、安全な場所にする方法について考えることを通して、自分たちの地域をより良くしようとする発言が見られるようになった。